

無

分

別

智

むかしから私たちは正直を美德として（一部は除く）生きてきました。日本は戦後、権利、自由、そして平等が叫ばれ民主主義国家として社会原則にもなりました。しかしここにきて何かおかしな事になつていています。原則は結構な事だと思つたのですが、自由と権利によつて自尊心が権利と称して行われています。文句をつけた方が自分の得ということでしょうか。責任もないのと日本は言われましたが、もう返上しなければならないようです。法律に引っかかるなければ何をしても自由、法に例え引っかかるとも、バレないか、裁判で勝てばそれで良し、自分が損さえしなければ、少々のあくどさは誰しもがやつている事として、済ましてしまうようです。そのような事もあれば、又逆に正当な権利があるのにも関わらず、泣き寝入りということもありますね。「正直者がバカを見る」これが実感として今の時代は感じるのです。ご所得、ばれなきやそれまでよ、であります。政治家がタレント化し、親は教師以上の権利を持ち、いや子供さえも教師より権利を持つてるようですね。ある事件で警察官は仲間が銃で撃ち殺されたのにもかかわらずその犯人が投降したときに犯人に「ありがとう」と言ったそうです。個人の権利を大切にと言つてもそれは他人ではなく自分の権利、個性を大切にと言うことなのです。以前は「他人に迷惑はかけない」が前提であります。個性を大切にと言うことと気ままにやると言うことは違うのです。大人と子供、教師と生徒、会社の序列、学校の序列すべてが平等の名の下に外されてしまつたのです。それは人間の権利の主張とは無関係ではないと思ひます。家族も親子関係でさえ、ともだち関係と言われるのはこの典型です。世界中が権利の主張で誰もが王様気分に浸つています。便利な物が次から次へ与えられ誰もが王様気分になります。すべての人があ自分を王様と思い、世界中は王様であふれ、だからこそ混乱や争いの多いの社会状況になつてゐるようです。王様ばかりの世の中は人間関係の折り合いがつけづらいものです。このダルを取つた女子選手が「自分で自分をほめてやりたい」と言い、流行語にもなりました。この言葉に私は何か違和感を感じていました。自分で自分を祭りあげる甘えでないかと思つたのです。自己主張の強い時代ですね。謙遜などはが死語にさえ、なりかけています。社会は共同生活個性を發揮すれば他を無視するような生き方になつてしまひます。仏教は「分化を否定します。それは分別を否定することなのです。自分の分別がどんなにあてにならないか、私たちは自分の工ゴで分別ばかりしています。分別は「道理をわきまえる」という意味もありますが、仏教では物事を別け隔てをして考へることです。これを分別智といいます。善惡不二・生死不二・仏教は別け隔てのない教え、これを無分別智と言います。自分勝手な分別の生き方をされる方があまりにも多く、このことが何かギスギスした社会状況を造つてゐるようですね。